



Tsubame Metal Flatware Design Exhibition

2026 6.16tue - 7.20mon

燕の金属洋食器 デザイン展



燕市産業史料館
TSUBAME INDUSTRIAL MUSEUM

会場:燕市産業史料館 別館 企画展示室 開館時間:午前9時~午後4時30分
主催:燕市 協力:日本金属洋食器工業組合 掲載作品:燕物産株式会社「月桂樹」

2026 6.16 tue - 7.20 mon

燕の金属洋食器 デザイン展

Tsubame Metal Flatware Design Exhibition

燕市の金属加工産業の代表格のひとつである金属洋食器産業。現在、金属洋食器は私たちの食生活に欠かせない道具ですが、燕市での製造の歴史は、1911（明治44）年までさかのぼります。

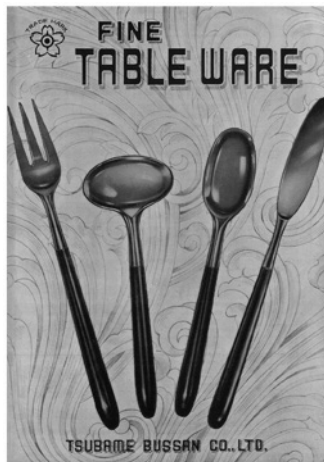
その100年以上にわたる歴史は、^{ついきどうき}鉋起銅器の技術を用いた手作り洋食器からはじまり、機械製造へと発展していきました。素材についても、真鍮や銅、洋白銀器を経て、現在主流の素材であるステンレスの加工へと展開。現在では、その他金属を用いた製造も行われています。製造技術の発展は、金属洋食器の質の向上だけでなく、多様なデザインの実現にもつながり、製造当時の時代背景や文化、生活様式、流行などを色濃く反映したものになっていきます。

昭和30年代に入ると、燕の金属洋食器製造の歴史の中で重要な出来事とされるアメリカからの金属洋食器の輸入制限が起ります。この出来事は、輸出依存からの転換と、安価な製品からの脱却といった燕の産業界の構造転換につながりましたが、燕の金属洋食器のデザインにも後々大きな影響を与えていくことにもなります。

本展では、燕の金属洋食器製造の歴史を振り返りながら、洋食器のデザインの変遷をたどります。



昭和25年のカタログ（小林工業株式会社）



昭和40年代のカタログ（燕物産株式会社）

燕の産業の起源を知る。

燕市産業史料館 [常設展]

燕市は江戸時代から続く金属加工産業の集散地として知られています。その産業の起源を分かり易く紹介しております。



起源を紐解く【本館】

江戸時代から続く鉋起銅器、ヤスリ、煙管、彫金といった伝統的の金属工芸技術について、製作工程や作業場の復元の展示を通して紹介しています。



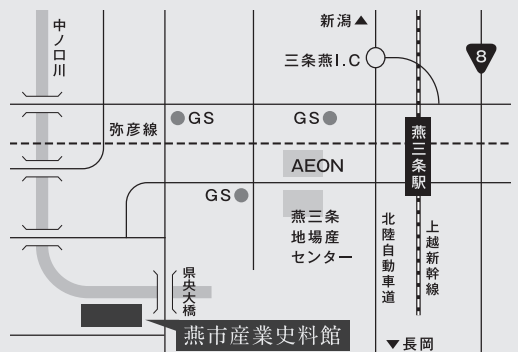
歴史を知る【新館】

明治から始まる燕の金属洋食器の歴史や金属ハウスウェアなどの展示を通して、現在に至る金属産業の変遷をたどることができます。



技術に触れる【体験工房館】

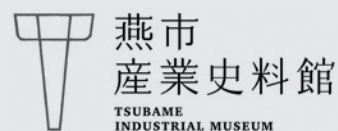
様々な体験メニューでお子様から大人の方まで楽しんでいただけます。作った作品は持ち帰ってご使用いただけます。



入館料 大人400円、小・中・高校生100円

開館時間 午前9時～午後4時30分

休館日 月曜日（祝日の場合は翌平日）



〒959-1263 新潟県燕市大曲4330-1

TEL 0256-63-7666

<https://tim.securesite.jp>



企画展関連イベント【作品解説会】

日時 **7月5日(日)** 午後2時～午後3時

解説者 **小林貞夫氏** 日本金属洋食器工業組合 理事長

会場 **別館 企画展示室** 参加費 **無料** (入館料別途必要)



イベント詳細・
その他企画展に
関する情報は
コチラ

【日本金属洋食器工業組合とは】

1957（昭和32）年にアメリカの金属洋食器輸入制限に際しての対策を目的とし、「日本輸出金属洋食器調整組合」として設立された。当時の組合員は73社。翌年の1958（昭和33）年には「日本輸出金属洋食器工業組合」に改組。

1979（昭和54）年、日本金属洋食器工業組合に改組し、現在ではカタリーの品質管理や技術向上、販促・ブランディング活動を行っている。現在の会員企業は賛助会員も含め、28社（令和8年1月1日現在）。

【燕物産株式会社「月桂樹」(英名: Laurel)とは】

捧吉右衛門商店（現・燕物産株式会社）によって大正初期につくられ、現在も販売を続けるロングセラーのカタリー。上野の精養軒が原型を発注したと考えられている。フランスのロココ調デザインをベースに、月桂樹と稲穂をモチーフとしたデザインで、ナイフの刀身には鎬と目通しがある。

捧吉右衛門商店（現・燕物産株式会社）は、1911（明治44）年に東京銀座の輸入商であった十一屋商店から、自宅用高級洋食器の注文を受けたことを機に、金属洋食器の製造をはじめ。日本初の金属洋食器専門メーカーとして、100年以上カタリーをつくり続けており、その歴史に関わる資料は燕市の金属洋食器の歴史を物語るものとして、燕市産業史料館にも数多く寄託されており、常設展示で見ることができる。